

とう ぎ し ま つ か わ い か ん じ ろ う
特別展 陶技始末 —河井寛次郎の陶芸

The Ceramics of Kawai Kanjirō: An Exploration of *Tōgi shimatsu*

(Essays on Traditional Ceramic Techniques in Japan)

2022 年 6 月 18 日 (土) ~ 8 月 21 日 (日)



さて 土は得た。何とこれに挨拶しよう。

中之島香雪美術館は、2022 年 6 月 18 日 (土) より、特別展「陶技始末—河井寛次郎の陶芸」を開催いたします。

河井寛次郎 (1890 ~ 1966) は、近年の「民藝」ブームにより、注目が増している陶芸家の一人です。本展のタイトル「陶技始末」は、河井が各地の窯場を訪問した際の実見録を、民藝運動の機関誌『工藝』に寄稿していた連載のタイトルです。これまでに紹介されていなかった河井の陶芸作品を中心に、創作活動の始まりから終わりまでをたどり、併せて、河井を支援した関西の収集家たちによるコレクションも紹介し、計約 100 点を展示します。

■ 河井寛次郎の「寛」は、「寛」の最後の画に「丶」が加わります

I 章 作風の変遷 —陶芸家としての歩み—

現在の島根県安来市に生まれた河井は、東京高等工業学校窯業科（現東京工業大学）に入学し、窯業を学びます。大正3年（1914）に京都市陶磁器試験場に入り、技手として約3年間の勤務後に独立し、同9年に五条坂の窯を入手して「鐘溪窯」と名付けました。初期は様々な釉薬の技術を駆使して、中国の古い陶磁器をモデルにした作品を発表します。ところが、大正13年（1924）に思想家柳宗悦と出会ったことが契機となり、同15年には、『日本民藝美術館設立趣意書』を刊行します（柳・陶芸家の富本憲吉・濱田庄司との連名）。「用の美」に即した素朴な味わいの作風に大きく転換し、民藝運動の中心的人物として活躍。戦後は用途をもたない陶彫による造形作品を展開しました。



[A] 河井寛次郎 青瓷鱗血文螭龍契壺
大正11年（1922）頃
公益財団法人 阪急文化財団 逸翁美術館



[B] 河井寛次郎 花扁壺
昭和22～23年（1947～48）頃
香雪美術館



[C] 河井寛次郎 辰砂扁壺
昭和23年（1948）
京都国立近代美術館（川勝コレクション）



[D] 河井寛次郎 呉洲陶彫像
昭和37年（1962）頃
河井寛次郎記念館

Ⅱ章 河井が見た各地の窯業と古陶磁 —陶技始末の執筆—

昭和3年(1928)1月に、河井は柳とともに西日本の民藝品調査のため、丹波篠山、山陰、九州一円を巡りました。その時に訪問した各地の窯場における実見録などを、同6年から9年にかけて、民藝運動の機関誌『工藝』に「陶技始末」というタイトルで計19回連載しました。第2回では、丹波焼の生産地である立杭^{たちくい}(兵庫県丹波篠山市)で実見した、泥状の白土を竹筒で流し掛ける^{つつがき}「筒描」と呼ばれる装飾技法を報告しています。第4回では、唐津^{あかの}(佐賀県唐津市)や上野(福岡県福智町)など北九州地方の窯で用いられた、器面に塗った白土を指や櫛状の工具で掻き落とす技法と、白い化粧土を絞り出して細い線状の文様を描く技法を紹介しています。河井は実見した技法を、それが用いられた古い陶磁器も併せて参考にしつつ、自作に採り入れました。



[E] 河井寛次郎 流描蓋付壺
昭和5年(1930)頃
河井寛次郎記念館



[F] 河井寛次郎 渦巻壺
昭和2年(1927)
公益財団法人 阪急文化財団 逸翁美術館



[G] 河井寛次郎 櫛描食籠
大正14年(1925)頃
アサヒビール大山崎山荘美術館



[H] 河井寛次郎 鉄釉指描瓶
昭和5～6年(1930～31)頃
アサヒビール大山崎山荘美術館

Ⅲ章 河井を支えた人々 ―関西の支援者・収集家たち―

河井の創作活動を支えた関西在住の支援者や収集家と、彼らが所蔵していた河井の作品を紹介します。

① 山岡 千太郎 (やまおかせんたろう・1871～1943)

くはら

久原鋳業（現日立製作所などの前身）監査役。京都の陶工である五代清水六兵衛が所有していた五条坂きよみず ろくべえ鐘鑄町かねいちょうの窯を河井に仲介するなど、陶芸家として駆け出しの河井を支えました。

② 西田 天香 (にしだてんこう・1872～1968)

いっとうえん

無所有奉仕の生活を行う一燈園を創始した思想家。河井は、山岡千太郎を通じて西田と知り合い、太平洋戦争末期に京都山科の一燈園へ疎開させた所持品を、同所に寄贈しています。

③ 小林 一三 (こばやしいちぞう・1873～1957)

阪急電鉄創業者。実業家同士の交流から山岡千太郎を通じて河井を知ったと推測されます。頒布会や展覧会で河井の作品を購入し、創作活動を支援しました。

④ 山本 爲三郎 (やまもとためさぶろう・1893～1966)

アサヒビール初代社長。民藝運動を黎明期から援助し、それに連なる作家たちの作品を、身の回りで日常的に使いました。

⑤ 川勝 堅一 (かわかつけんいち・1892～1979)

高島屋東京支店宣伝部長、のち高島屋取締役。高島屋（東京・大阪）で開催された個展を担当し、生涯にわたり深い友情で結ばれました。所蔵の河井作品を京都国立近代美術館に寄贈。

⑥ 岩井 武俊 (いわいたけとし・1886～1965)

大阪毎日新聞京都支局長。昭和3年(1928)の同社京都支局新館落成を記念して、同館で河井の個展を開催するなど、河井や京都の民藝運動を支援しました。



□ 河井寛次郎 流描線文鉢
昭和6年(1931)
アサヒビール大山崎山荘美術館



□ 河井寛次郎 草花絵扁壺
昭和14年(1939)
京都国立近代美術館（川勝コレクション）

作品画像貸出一覧



A



B



C



D



E



F



G



H



I



J

- A 河井寛次郎 せいじ ぜんけつもん ちりゅうけいこ 青瓷鱗血文螭龍契壺 1922年頃 公益財団法人 阪急文化財団 逸翁美術館
- B 河井寛次郎 はな へんこ 花扁壺 1947～48年頃 香雪美術館
- C 河井寛次郎 しんしゃ へんこ 辰砂扁壺 1948年 京都国立近代美術館 (川勝コレクション)
- D 河井寛次郎 こ すとうちようぞう 呉洲陶彫像 1962年頃 河井寛次郎記念館
- E 河井寛次郎 ながしがきふたつきつぽ 流描蓋付壺 1930年頃 河井寛次郎記念館
- F 河井寛次郎 うずまきつぽ 渦巻壺 1927年 公益財団法人 阪急文化財団 逸翁美術館
- G 河井寛次郎 くしがきじきろう 櫛描食籠 1925年頃 アサヒビール大山崎山荘美術館
- H 河井寛次郎 てつゆうゆびがきへい 鉄釉指描瓶 1930～31年頃 アサヒビール大山崎山荘美術館
- I 河井寛次郎 ながしがきせんもんぼち 流描線文鉢 1931年 アサヒビール大山崎山荘美術館
- J 河井寛次郎 そう か え へんこ 草花絵扁壺 1939年 京都国立近代美術館 (川勝コレクション)

開催概要

会 期 2022年 6月18日(土) ～ 8月21日(日)

休 館 日 月曜日(祝日の場合は翌火曜日)

開館時間 午前 10 時～午後 5 時 (入館は午後 4 時 30分まで)

夜間特別開館 2022年 6月23日(木)、7月21日(木)、8月18日(木) ～午後7時30分(入館は午後7時まで)

料 金 一般 1,100 (900) 円、高大生 700 (500) 円、小中生400 (200) 円

◎ () 内は前売り(一般のみ)、20名以上の団体料金

◎ 前売り券は 6月17日まで中之島香雪美術館、フェスティバルホール・チケットセンターで販売しています。

主 催 公益財団法人 香雪美術館、朝日新聞社、毎日新聞社

会 場 中之島香雪美術館
530-0005 大阪市北区中之島3-2-4 中之島フェスティバルタワー・ウエスト4階
TEL 06-6210-3766 FAX 06-6210-4190 <https://www.kosetsu-museum.or.jp/nakanoshima/>
Twitter@kosetsu_museum

記念対談

タイトル：「寛次郎をご覧(ろう)じろ」

登壇者：鷺 珠江(さぎ・たまえ)氏(河井寛次郎記念館学芸員・河井寛次郎孫)

梶山博史(かじやま・ひろふみ)(当館学芸課長・本展企画者)

【日時】 2022年 7月 9日(土) 14時～15時30分(受付開始13時30分)

【会場】 中之島会館(中之島香雪美術館隣)

【参加料】 500円(展覧会観覧ご希望の方は、別途入館券をご購入ください)

【定員】 120名(予定)

【受付開始】 5月14日(土)

【応募方法】 1通で2名様まで応募可能。参加人数、それぞれの住所、氏名、年齢、電話番号を明記ください。

メール

以下アドレス宛にお申し込みください。詳細を返信します。

E-mail: n-kouenkai@kosetsu-museum.or.jp (※左記アドレスを受信可能に設定してください)

往復ハガキ

返信ハガキの宛先には、代表者の住所、氏名をご記入ください。返信ハガキで参加証を郵送します。

【宛先】〒530-0005 大阪市北区中之島3-2-4 中之島フェスティバルタワー・ウエスト4階
中之島香雪美術館「河井寛次郎」展 対談係

FAX: 06-6210-4190

取材・写真使用申込書

中之島 香雪美術館

Nakanoshima Kosetsu Museum of Art

(西暦) 年 月 日

取材について

取 材 者	フリガナ	フリガナ
	会社名	担当者名(連絡者)
	住所 〒	TEL
		FAX
	E-mail	取材人数 名
取材希望日時	(西暦) 年 月 日 時 分 ~ 時 分	
媒 体	種別 ☐ テレビ ☐ ラジオ ☐ 新聞 ☐ 雑誌 ☐ その他()	
	番組名・コーナー名	
放送・発行日等	(西暦) 年 月 日 時 分 ~ 時 分	
取材の範囲	☐ する (撮影機材 ☐ スチール ☐ ENG ☐ DVC) 撮影 ☐ しない	
備 考		
特に取材したい場所・内容等		

写真使用について

プレス用写真一覧をご確認の上、希望画像番号をご明記ください。

作 品 画 像	中之島香雪美術館 館 内 画 像
---------	---------------------

注 意 事 項	・企画書など概要がわかる書類の提出をお願いいたします。 ・原稿および記事については貴メディアへ御掲載前に中之島香雪美術館広報担当宛に確認のためお送りくださいますようお願いいたします。 ・掲載後は掲載誌等の送付をお願いしております。 ・画像の名称(作品名)、指定、展示期間、所蔵元、クレジット(ある場合)を記載してください。 ・サイズは、(web掲載用)長辺1000px 100dpi (紙媒体用)長辺1000px 300dpi まで。 ・ウェブ掲載の場合、掲載期間を最長6ヶ月とし、その後は削除をお願いします。それ以上の期間掲載をご希望の方は、再度ご連絡ください。
---------	--

報道関係のお問い合わせ

「中之島香雪美術館」 広報担当
TEL 06-6210-3766 FAX 06-6210-4190 Email n-kouhou@kosetsu-museum.or.jp
〒530-0005 大阪市北区中之島3-2-4 中之島フェスティバルタワー・ウエスト 4階